

丸山ハイキング



2004年4月18日(日)「丸山・日向山ハイキング」を行いました。場所は、埼玉県横瀬町。八王子駅からJR八高線で東飯能駅まで行き、西武秩父線に乗り換えて芦ヶ久保駅で下車します。

今回の参加者は、常連の小野勝彦さん、桜井利子さん、宮部忠和さん、そして、すごく久しぶりに鈴木宏さん、少し久しぶりに奥さんの鈴木しずかさん、町田行弘の6名です。好天に恵まれ、暑すぎるほどではなかったのですが、最近のハイキングではほとんどなかった上りの急勾配に小野さんの足がビックリしたのでしょうか、丸山山頂手前で、軽い痙攣をおこします。なんとか丸山を乗り切ったのですが、県民の森でのトイレ休憩から歩き出すと再び発作に襲われます。この時通りかかったハイカーがくれたのが“魔の白い粉”「これを水で飲むと効きますよ」まさか“麻薬”？いえいえ、実は“塩”なのです。大汗をかかなかったために気がつかない水分とミネラルの不足が影響したのでしょう。塩と水の効果はすぐにあらわれ、なんとか歩き続けます。

日向山は、とんがり帽子のような山で、小野さんの発作を考えて断念します。そのかわり、“あしがくぼ果樹公園村”で今流行のローラー滑り台を体験できたのです！

そして、小野さんの3度目の発作。でも、塩をなめて水を飲んで治まります。最後に芦ヶ久保駅手前の酒屋で“魔の白い粉”をくれた女性ハイカーと再会、「いやー、効いたよ塩！」



久しぶり！

朝7時、八王子駅横浜線ホームには、小野勝彦さん、桜井利子さん、鈴木宏さん、鈴木しずかさん、宮部忠和さん、町田行弘の6名が集合しました。鈴木しずかさんは、昨年6月の「むかし道」以来、鈴木宏さんは、なんと2001年8月の「箱根旧街道」以来の久しぶりの参加です。彼は、最近、それまで働いていた老人介護施設の仕事を辞め、バイク便の仕事に就いているとのこと。思い返せば8年前、ティップネス町田店の中でランニング・サークルとして始めた“WTR CLUB”のメンバーに小野さん、桜井さん、鈴木さん、金原（鈴木しずかさんの旧姓）さんがいました。しばらくして、鈴木さんと金原さんは結婚したのです。なつかしいですねえ…。

さて、7時22分の八高線に乗り、東飯能駅で西武秩父線に乗り換えます。東飯能駅というと、「秩父札所巡り」の時、必ず、近くのコンビニに立ち寄っていました。その駐車場に、小野さんが落とした切符を横山さんが駅から走って拾いに行ったことは印象的。3月に行った「関東シルクロード 飯能から秩父へ」の下見に来た時、そのコンビニはなくなっていました。ちょっとさびしい気分。



腹減った

9時過ぎ、芦ヶ久保駅に到着します。この駅の利用は初めてですが、駅周辺は大きく変化しました。昔からの“芦ヶ久保屋外アイススケート場”が廃業し、駅の真下に今年「道の駅」が完成しました。駅前広場は昔のままのようで、「道の駅」の影響を受けながらも（？）プレハブの売店とそば屋が営業していました。さわやかな気候の中で、トイレや歩き出す準備をしているうち、みんなお腹がすいてきます。町田はおにぎりを買って食べ始めました。ひとりやり出すと連鎖反応が起こり、鈴木夫妻はそば屋へ、小野さんは売店でパンを、と身体の出発準備です。



茶色い急勾配の登り

9時30分近くになって、歩き始めました。駅前広場から階段を下り、交通量が多くなってきた国道299号線を飯能方面に向かいます。30分ほどで国道から斜め左に入る登山口に到着しました。民家の中を進むとようやく狭い山道になります。山腹を這うように続く道は比較的なだらかに登り、木橋で沢を越えたり、岩伝いに沢を渡ったり、昨年の「むかし道」を想い出すような雰囲気があります。

ところが、最後に沢を渡り、これまで以上に杉林の密度が増してきたあたりから信じられないような急勾配の登りが始まり、それは、「石割山ハイキング」の長い石段のように続きました。杉は真っ直ぐに空高く伸びていて、緑は遙か上の方で、目に入る色は土と木の幹の茶色ばかり。延々と続く急勾配で上を見たくないので、足元付近に視線がいつてしまい、ますます茶色。こんな辛いのは久しぶり、道に迷った夏の「沼津アルプス」以来かも…？

登り続けると、なぜかバイクの音が上方から聞こえ、上を見ると電柱や電線が見えます。なんと車道に放り出されてしまいました。ここが大野峠。車道は“奥武蔵グリーンライン”で「黒山三滝ハイキング」の時、サイクリングの集団が走っていた道です。もっとも場所はずっと秩父寄りですが、車道を横





切り、再び山道に入り、急な木段を上りきると素晴らしい展望地に出ました。ここは、ハンググライダーの出発地点に利用されているらしく、下に着陸ポイントが確認できます。先ほどの大野峠まで車で運んでもらって、ここから飛び立つのでしょうか。うまい場所があったものです。



小野さんにトラブル発生

丸山はここからさらに1キロほど緩やかに登ります。白石峠への分岐を左に曲がり、陽当たりのよい雑木林の美しい道で、数年前の「焼山ハイキング」の「姫次」あたりを思い出していました。やがて、道幅が広くなり、左に電柱と電線が現れ、電波塔を目指すように登ります。と、ここで小野さんの足にトラブル発生！前回の「鐘撞堂山ハイキング」では、ハイキングシューズのアウトソールが剥がれたのですが、今回は、右足膝上の筋肉の痙攣。久しぶりの急な登りが効いたようです。しば



らく休んで、痙攣が治まりホッとします。丸山は電波塔のすぐ先です。

丸山到着は12時ちょうど。時間も時間だったのですが、人の多さにビックリ！展望台の下に場所をとり昼食にしました。コンクリートの展望台からは360度の眺望が広がり、さらに設置されている古い双眼鏡はなかなかの精度で、遠くの山の様子まではっきり確認できます。



塩と水

昼食を終え、トイレを求めて「県民の森」の中をしばし散策します。トイレをすませて、本来のコースへ戻るため木段を登り始めた時、小野さんの足が再び痙攣。そこに通りかかったハイカーのおばさんが「塩をなめて水を飲むと効くわよ」と、小さな袋に入った塩をくれて立ち去りました。言われた通りにして、しばらくすると痙攣が治まります。「いやあ、効いたよ」ハイキングコースに戻り、緩やかな尾根道を下ると車道に出ます。車道を横切ると、未舗装ながら道幅が広がり、傾斜もきつくなりました。こんな時、逆から登るのとどちらが楽かなん



てことを考えてしまいます。木陰の少ないこちらの道を登る方が辛いかも...？ 30分ほど下ると分岐がありました。これまでの広い道は“果樹公園村から芦ヶ久保駅” 右に入る狭い道は“日向山” となっています。小野さんの足のことを考え、日向山に登ることはこの時点で頭から外していたので、どちらのコースでもよかったのですが、トイレの状況から右の狭いコースを選びました。



日向山はパス

杉林の中を下ること約 15 分で車道に出ました。車道を左に少し歩くと“木の子茶屋”があります。近くに広い駐車場があり、“山の花道”を散策する観光客で賑わっています。山の花道を少し歩き、日向山の登山口で引き返します。桜井さんは「せっかくだから登りましょうよ」と残念そうでしたが、小野さんの足の調子を考え、果樹公園村の中を歩いて駅に向かうことにします。



“あしがくぼ果樹公園村” は、日向山の南斜面に広がるフルーツの農園の集まりで、季節によって、いちご、プラム、ぶどう、



りんごなどのフルーツ狩りができます。昨年2月の「三浦富士ハイキング」の津久井浜観光農園に似ています。沢沿いのハイキングコースを下るとなんだか子供達の声が聞こえてきます。

憧れのローラー滑り台

“農村公園”に到着しました。ここには沢を利用した水遊び場とローラー滑り台がありました。ローラー滑り台では二人の子供が遊んでいましたが、その中に大人が入っても子供の邪魔にはならないと判断(?)し、ずかささんが滑ります。続いて桜井さん、町田が滑ります。しばし、子供の心にかえって、駅を目指して出発。この時、小野さんが3回目の痙攣! もらった塩をなめて、水をたくさん飲んで、なんとか回復。ハイキングコースは、農村公園で終わり、舗装路を歩いて駅に向かいます。駅の手前の酒屋に数人のハイカーが缶





ビールを飲んでいました。「いやぁ、塩の人！効いたよ！」彼らは、日向山に登り、琴平神社、芦ヶ久保大観音を通して来たようです。私たちは、その間、ローラー滑り台で遊んでいました。

これから暑い夏、“塩”は必需品ですね！



町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
桜井利子	194-0001	東京都町田市つくし野 1-32-17 042-796-9591
鈴木宏	228-0812	神奈川県相模原市相南 2-6-17 042-701-1653
鈴木しずか	228-0812	神奈川県相模原市相南 2-6-17 042-701-1653
宮部忠和	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666

